

〔共同研究〕

学際的研究による 漆文化史の新構築

日高 薫・工藤雄一郎 編

共同研究の経過と概要 日高 薫
基盤研究「学際的研究による漆文化史の新構築」

【論文】
縄文時代の漆文化と
その起源に関する諸問題 工藤雄一郎
学史的視点から今日的課題へ

【調査研究活動報告】
縄文時代・続縄文時代の遺跡出土
漆製品の¹⁴C年代測定 工藤雄一郎・永嶋正春

【論文】
縄文時代の日本列島におけるウルシとクリの
植栽と利用 能城修一・吉川昌伸・佐々木由香

【研究ノート】
掻き傷刺激によるウルシ乳管の増加 鈴木三男・小林和貴

【論文】
ストロンチウム同位体分析による漆の産地同定 吉田邦夫・佐藤正教・中井俊一

【論文】
安福寺蔵漆棺片考 岡田文男
AMS¹⁴C年代測定・制作技法・部位

【研究ノート】
中世漆器の生産と流通について 四柳嘉章
広島県草戸千軒町遺跡の事例から

【資料紹介】
桃山～寛永文化移行期における深緑色塗料に関する一調査事例 北野信彦・本多貴之

【調査研究活動報告】
近世江戸遺跡出土漆製品の集成 都築由理子

【研究ノート】
唐物茶入に添う彫漆盆利用の特質 多比羅菜美子

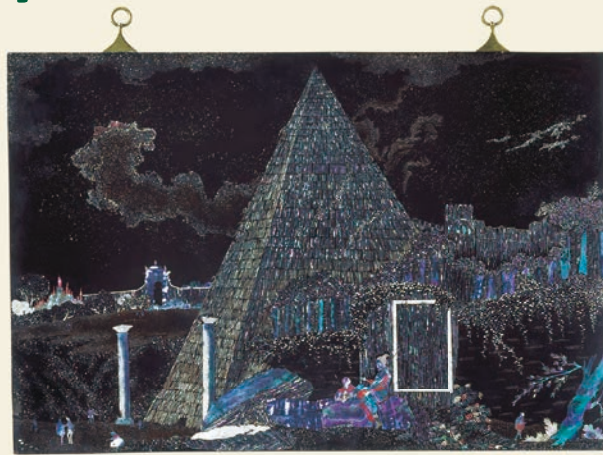
【論文】
風景図時絵プラークの原図と技法について 日高 薫

【論文】
琉球・沖縄の漆芸 宮里正子

【論文】
琉球の漆文化と科学分析に関する学際研究 宮腰哲雄・本多貴之・宮里正子

【論文】
漆をめぐる民俗学的諸問題 小池淳一

【研究ノート】
江戸・東京の漆器流通と塗物問屋 岩淵令治
一九世紀を中心に



国立歴史民俗博物館 研究報告

第225集
令和3年3月

Bulletin of The National Museum of Japanese History

Collaborative Research :
New Organization of Japanese
Lacquer Culture History
Through an Interdisciplinary Study

Edited by HIDAKA Kaori and KUDO Yuichiro

国立歴史民俗博物館 研究報告 第225集

【共同研究】
学際的研究による
漆文化史の新構築

日高 薫・工藤雄一郎 編

March 2021

令和3年3月

目 次

共同研究の経過と概要	日高 薫	1
基盤研究「学際的研究による漆文化史の新構築」		
[論文]		
縄文時代の漆文化と その起源に関する諸問題	工藤雄一郎	11
学史的視点から今日的課題へ		
[調査研究活動報告]		
縄文時代・続縄文時代の遺跡出土 漆製品の ¹⁴ C年代測定	工藤雄一郎・永嶋正春	39
[論文]		
縄文時代の日本列島における ウルシとクリの植栽と利用	能城修一・吉川昌伸 佐々木由香	59
[研究ノート]		
掻き傷刺激によるウルシ乳管の増加	鈴木三男・小林和貴	79
[論文]		
ストロンチウム同位体分析による 漆の産地同定	吉田邦夫・佐藤正教 中井俊一	99
[論文]		
安福寺蔵漆棺片考	岡田文男	139
AMS ¹⁴ C年代測定・制作技法・部位		
[研究ノート]		
中世漆器の生産と流通について	四柳嘉章	155
広島県草戸千軒町遺跡の事例から		

【資料紹介】

桃山～寛永文化移行期における 深緑色塗料に関する一調査事例	北野信彦・本多貴之	171
----------------------------------	-----------	-----

【調査研究活動報告】

近世江戸遺跡出土漆製品の集成	都築由理子	189
----------------	-------	-----

【研究ノート】

唐物茶入に添う彫漆盆利用の特質	多比羅菜美子	235
-----------------	--------	-----

【論文】

風景図蒔絵プラークの原図と技法 について	日高 薫	243
-------------------------	------	-----

【論文】

琉球・沖縄の漆芸	宮里正子	275
----------	------	-----

【論文】

琉球の漆文化と 科学分析に関する学際研究	宮腰哲雄・本多貴之 宮里正子	309
-------------------------	-------------------	-----

【論文】

漆をめぐる民俗学的諸問題	小池淳一	351
--------------	------	-----

【研究ノート】

江戸・東京の漆器流通と塗物問屋 一九世紀を中心に	岩淵令治	371
-----------------------------	------	-----

Contents

HIDAKA Kaori — Overview and Progress of the Collaborative Research Fundamental Research: New Organization of Japanese Lacquer Culture History Through an Interdisciplinary Study	1
[Article]	
KUDO Yuichiro — Questions Concerning Lacquer Culture in the Jomon Period and its Origin: From Historical Perspectives to Contemporary Challenges	11
[Report on Investigation and Research Activity]	
KUDO Yuichiro and NAGASHIMA Masaharu —— Radiocarbon Dating of Lacquered Objects Excavated at the Sites of Jomon and Epi-Jomon Period	39
[Article]	
NOSHIRO Shuichi, YOSHIKAWA Masanobu and SASAKI Yuka —— Plantation and Utilization of <i>Toxicodendron vernicifluum</i> and <i>Castanea crenata</i> in the Japanese Archipelago during the Jomon Period	59
[Research Notes]	
SUZUKI Mitsuo and KOBAYASHI Kazutaka —— Increase of Traumatic Latex Tubes by a Cutting Stimulus in <i>Toxicodendron vernicifluum</i> (Stokes) F.A. Barkley Bark	79
[Article]	
YOSHIDA Kunio, SATO Masanori and NAKAI Shunichi —— A Provenance Study of Urushi by Strontium Isotope Analysis	99
[Article]	
OKADA Fumio — A Consideration of the Lacquer Coffin Fragment from the Collection of <i>Anpukuji</i> Temple: ¹⁴ C AMS, Production Techniques and a Part of the Coffin	139

[Research Notes]

- YOTSUYANAGI Kasho — Production and Distribution of Middle age Lacquerware :
Examples of the Hiroshima Prefecture's *Kusadosengencho*
Ruins 155

[Research Materials]

- KITANO Nobuhiko and HONDA Takayuki
——— A Case Study on the Dark Green Paint in the Transitional
Period from Momoyama to Kanei Cultures 171

[Report on Investigation and Research Activity]

- TSUZUKI Yuriko ——— Collecting Data on Lacquerwares Excavated from
Early Modern Sites in Edo 189

[Research Notes]

- TAHIRA Namiko ——— Characteristics Observed in the Using of Carved
Lacquer Tray for *Karamono* Tea Caddy 235

[Article]

- HIDAKA Kaori ——— Techniques and Original Pictures of
Lacquer Plaques with Landscape 243

[Article]

- MIYAZATO Masako ——— The Lacquer Arts of Ryukyu and Okinawa 275

[Article]

- MIYAKOSHI Tetsuo, HONDA Takayuki and MIYAZATO Masako
——— Interdisciplinary Research on the Lacquer Culture of
Ryukyu and Scientific Analyses of Ryukyu Traditional
Lacquerwares (Review) 309

[Article]

- KOIKE Jun'ichi ——— Folklore Issues Surrounding Lacquer 351

[Research Notes]

- IWABUCHI Reiji ——— Lacquerware Wholesalers and Distribution of Lacquerware
in Edo/Tokyo: A Focus on the 19th Century 371

『国立歴史民俗博物館研究報告』投稿要項

平成 29 年 3 月 27 日 研究推進センター会議決定

平成 31 年 3 月 5 日 研究推進センター会議改正

令和 2 年 3 月 3 日 研究推進センター会議改正

令和 3 年 1 月 12 日 研究推進センター会議改正

1 定義

- 1.1 『国立歴史民俗博物館研究報告』（以下「研究報告」という。）は、国立歴史民俗博物館（以下「本館」という。）の研究資源、機器等を利用した研究成果を掲載する本館における最も基本的な刊行物であり、歴史学、考古学、民俗学及びそれらの協業による広義の歴史学並びにそれらと関連する諸分野に関する「論文」、「研究ノート」、「資料紹介」、「調査研究活動報告」（以下「論文等」という。）を発表することにより、それらの学問の発展に寄与するものである。
- 1.2 研究報告には、通常号と特集号がある。通常号は、本館が定期的に刊行する研究成果の報告書であり、特集号は、本館共同研究等の成果報告書である。

2 資格

- 2.1 通常号に投稿できる者は、次のとおりである。なお、共著の場合は筆頭著者が以下に該当する者であること。
 - 一 本館の教職員、客員教員、名誉教授。
 - 二 本館運営会議委員。
 - 三 本館の共同研究員等。
 - 四 本館の教員が代表者である科学研究費助成事業の研究分担者等。
 - 五 本館が受け入れた各種研究員、研究協力者（リサーチアシスタントを含む）。
 - 六 本館特別共同利用研究員のうち受入期間中の研究成果の発表を希望する者で、指導教員が推薦した者。
 - 七 総合研究大学院大学文化科学研究科日本歴史研究専攻の大学院生で、本館教員が推薦した者。
 - 八 本館の館蔵資料を調査・研究し、その成果をまとめた者で、本館教員が推薦した者。
 - 九 その他、研究報告編集委員会（以下「委員会」という。）が適当と認めた者。
- 2.2 特集号に投稿できる者は、次のとおりである。なお、共著の場合は筆頭著者が以下に該当する者であること。
 - 一 本館の共同研究員等。
 - 二 本館の教員が代表者である科学研究費助成事業の研究分担者等。
 - 三 その他、本館共同研究等の代表が必要と判断し、委員会が適当と認めた者。

3 投稿

- 3.1 掲載される論文等には、次の区分がある。
 - 一 論文：歴史学、考古学、民俗学および分析科学を含む関連諸学に関するオリジナルな研究の成果をまとめたもの、もしくはある分野に関する研究史や研究成果、現状、展望等を総覧し、総合的にまとめたもの。
 - 二 研究ノート：研究の中間報告等大きな研究の一部をなすもの、もしくは予察、試論、着想等を提示するもの。
 - 三 資料紹介：歴史・考古・民俗・博物館に関する資料の紹介や解題・翻刻を主としたもの。
 - 四 調査研究活動報告：本館の事業や研究活動の内容について報告するもの、もしくは調査・研究の基礎情報を提示するもの。
- 3.2 原稿は、区分を問わず未発表のものとする。また、二重投稿は認めない。
- 3.3 原稿の区分は、執筆者が明示する。なお、この区分の最終的な調整は委員会において行う。
- 3.4 原稿の使用言語は、原則として日本語とする。他の言語を用いる場合は、事前に編集委員会に相談すること。
- 3.5 その他、原稿の執筆・提出に関する詳細は「『国立歴史民俗博物館研究報告』執筆要領」に定める。

4 受理・採録

- 4.1 原稿は、委員会で定めた査読者による査読を経て、委員会が審査の上、掲載の可否を決定する。
- 4.2 原稿は、採否にかかわらず原則として返却しない。返却を希望する写真、図版等のある場合には申し出ること。

5 権利関係

- 5.1 研究報告の編集著作権は大学共同利用機関法人人間文化研究機構にあり、論文等の著作権は執筆者に属する。
- 5.2 研究報告は、原則として本館のリポジトリに登録される。本館は、本館のリポジトリに関して複製権と公衆送信権をもつ。但し、執筆者は公開に適さない部分の削除・非公開を表明できる。
- 5.3 執筆者の所属機関等のリポジトリでの公開は、研究報告の紙型を用いた場合は、編集著作権との関連上、刊行から1年後以降、データのみ場合は初出を明記した上で奥付日以降に可能とする。なお、所属機関等のリポジトリに公開を希望する場合は、本館に連絡する。

6 その他

- 6.1 本館で作成する抜刷りは、50部までとする。
- 6.2 稿料の支払い、掲載料の徴収は行わない。
- 6.3 本要項の改訂に際しては、委員会が原案を作成し、研究推進センターが決定する。
- 6.4 提出先・連絡先
 - 〒285-8502 千葉県佐倉市城内町117番地
 - 国立歴史民俗博物館研究協力課 研究報告担当（代表電話 043-486-0123）

附 則

『国立歴史民俗博物館研究報告』寄稿要項（通常号）及び『国立歴史民俗博物館研究報告』寄稿要項（特集号）は廃止する。

附 則

この要項は、平成29年4月1日から施行する。

附 則

この要項は、平成31年4月1日から施行する。

附 則

この要項は、令和2年4月1日から施行する。

附 則

この要項は、令和3年2月1日から施行する。

『国立歴史民俗博物館研究報告』執筆要領

令和 3 年 2 月 9 日

研究報告編集委員会

I 体裁

1. 判型と字数

- ・ A4 判 横書または縦書。
- ・ 縦書の場合は、1 頁 32 字× 27 行× 2 段 (1,728 字)。
- ・ 横書の場合は、1 頁 44 字× 37 行× 1 段 (1,628 字)。

2. 分量

- ・ 区分を問わず 40 頁以内を目安とすること（写真、図版、表及び論文要旨等を含む）。
- ・ 特集号の原稿の総分量は、原則として、刷り上がりが 500 頁（写真、図版、表及び論文要旨を含む）以内に収めること。

3. 図表・写真

- ・ 最大で、横 169mm × 縦 237.5mm。

II 投稿, および採録後の提出

1. 投稿時の送付物

- ・ 文章（要旨も含む）および写真・図版・表などを印刷して執筆者名とタイトルを表記した印刷物 3 部を送付すること（この印刷物に対して査読を行う）。

2. 原稿の区分

- ・ 原稿の区分（論文／研究ノート／資料紹介／調査研究活動報告）を明示すること。

3. 要旨とキーワード

- ・ 「論文」には、下記の要旨およびキーワードを付けること（日本語・英語の両方が必要）。
800 字以内の日本語要旨および 5 項目以内の日本語キーワード
400 語程度の英語要旨および 5 項目以内の英語キーワード
- ・ 「研究ノート」「資料紹介」「調査研究活動報告」については、英語タイトルも付けること。

4. 使用言語

- ・ 日本語以外の言語を使用する場合は、日本語の翻訳または抄訳を付けること。

5. 採録決定後の送付物

- ・ 採録決定後に、文章および写真・図版・表などのファイルを収録して執筆者名とタイトルを記した CD または DVD 1 枚、写真・図版等の原版（使用する場合）、および上記の印刷物 1 部を提出すること。写真・図版等の原版のうち返却を希望するものは明示すること。
なお、査読の趣旨に鑑み、採録決定後は内容の修正・加筆はできない。
著者による校正は再校まで行うが、組版の問題や、誤字・脱字の修正等に限る。

6. 掲載順序

- ・ 通常号の掲載順序は、編集委員会に一任すること。原則として、通常号においては「論文」, 「研究ノート」 「資料紹介」 「調査研究活動報告」の順となる。

III 原稿作成についての留意事項

1. テキストデータ

- ・ タブ設定、注釈、箇条書きなど、ワープロソフト固有の特殊機能は避けること。
- ・ テキストデータの作成は、Microsoft Word または Just System 一太郎 を推奨する。
InDesign などの編集ソフトデータで提出しないこと。
- ・ 特殊な文字、記号、割注、ルビなど、テキストの指示は印刷物に明示すること。

2. 写真

- ・文中に貼り付けた写真は印刷には適さないので、デジタルファイル、ポジフィルム、ネガフィルム、紙焼きなどの元データを用意すること。
- ・デジタル写真の場合、希望する掲載サイズと等寸で解像度を 350dpi 以上とすること（JPEG 画像は保存のたびに劣化するので注意すること）。

3. 図版

- ・文中に貼り付けた図版は印刷に適さないので、元データを用意すること。
- ・出力見本として、印刷したものを用意すること。
- ・デジタル図版の作成は、Adobe Illustrator を推奨する。0.25 ポイント以上の線幅を用い、完成後はアウトラインをかけて TIFF 画像、PNG 画像にすること。
- ・PDF は、トリミングのずれや文字化けを起こすことがあるので極力使用しないこと。
- ・図面のトレースは 1,200dpi 以上、印刷物のスキャンは 600dpi 以上で取り込むこと。

4. 表

- ・表計算ソフトで作成した表は、関数を値に変換し、書式・桁数など表示とセルの内容とを一致させること。

5. カラーの使用について

- ・カラーの写真、図版、表の掲載は原則として認めない。希望する場合は理由を提出し、編集委員会の許可を得ること。

6. 許諾

- ・写真、図版、翻刻等の掲載に際しての許諾は執筆者がとり、使用料も原則として執筆者が負担すること。

7. その他

- ・写真、図版、表を別データへリンクさせた状態で投稿することは認めない。
- ・印刷に適した大きさや解像度の写真、図版、表がない場合は掲載できないことがある。

IV 提出先・連絡先

〒285-8502 千葉県佐倉市城内町 117 番地
国立歴史民俗博物館 研究協力課 研究報告担当
(代表電話：043-486-0123)

〔国立歴史民俗博物館研究報告編集委員会〕

館外委員（五十音順）

青 木 敬 國學院大學文学部
大 石 泰 夫 國學院大學文学部
未 代 誠 仁 桜美林大学リベラルアーツ学群
見 城 悌 治 千葉大学大学院国際学術研究院

館内委員（五十音順）

川 村 清 志 研究部民俗研究系
小 島 道 裕 研究部歴史研究系（委員長）
坂 本 稔 研究部情報資料研究系
村 木 二 郎 研究部考古研究系

国立歴史民俗博物館研究報告 第225集
〔共同研究〕学際的研究による漆文化史の構築
日 高 薫 編

●
令和3年（2021）3月31日 第1版第1刷発行

（非売品）

発行所

●
大学共同利用機関法人
人間文化研究機構

国立歴史民俗博物館

〒285-8502 千葉県佐倉市城内町117 ☎043-486-0123（代）

印刷・製本所

●
株式会社 正文社

〒260-0001 千葉県千葉市中央区都町1-10-6 ☎043-233-2235（代）

〔装丁〕 中山銀士

Bulletin of the National Museum of Japanese History

Collaborative Research : New Organization of Japanese Lacquer Culture History Through an Interdisciplinary Study Edited by HIDAKA Kaori and KUDO Yuichiro

Overview and Progress of the Collaborative Research
Fundamental Research: New Organization of Japanese Lacquer Culture History Through an Interdisciplinary Study
HIDAKA Kaori

[Article]

Questions Concerning Lacquer Culture in the Jomon Period and its Origin :
From Historical Perspectives to Contemporary Challenges
KUDO Yuichiro

[Report on Investigation and Research Activity]

Radiocarbon Dating of Lacquered Objects Excavated
at the Sites of Jomon and Epi-Jomon Period
KUDO Yuichiro and NAGASHIMA Masaharu

[Article]

Plantation and Utilization of *Toxicodendron vernicifluum*
and *Castanea crenata* in the Japanese Archipelago during the Jomon Period
NOSHIRO Shuichi, YOSHIKAWA Masanobu and SASAKI Yuka

[Research Notes]

Increase of Traumatic Latex Tubes by a Cutting Stimulus
in *Toxicodendron vernicifluum* (Stokes) F. A. Barkley Bark
SUZUKI Mitsuo and KOBAYASHI Kazutaka

[Article]

A Provenance Study of Urushi by Strontium Isotope Analysis
YOSHIDA Kunio, SATO Masanori and NAKAI Shunichi

[Article]

A Consideration of the Lacquer Coffin Fragment from the Collection of *Anpukuji* Temple : ^{14}C AMS, Production Techniques and a Part of the Coffin
OKADA Fumio

[Research Notes]

Production and Distribution of Middle age Lacquerware : Examples of the Hiroshima Prefecture's *Kusadosengencho* Ruins
YOTSUYANAGI Kasho

[Research Materials]

A Case Study on the Dark Green Paint in the Transitional Period from Momoyama to Kanei Cultures
KITANO Nobuhiko and HONDA Takayuki

[Report on Investigation and Research Activity]

Collecting Data on Lacquerwares Excavated from Early Modern Sites in Edo
TSUZUKI Yuriko

[Research Notes]

Characteristics Observed in the Using of Carved Lacquer Tray for *Karamono* Tea Caddy
TAHIRA Namiko

[Article]

Techniques and Original Pictures of Lacquer Plaques with Landscape
HIDAKA Kaori

[Article]

The Lacquer Arts of Ryukyu and Okinawa
MIYAZATO Masako

[Article]

Interdisciplinary Research on the Lacquer Culture of Ryukyu and Scientific Analyses of Ryukyu Traditional Lacquerwares (Review)
MIYAKOSHI Tetsuo, HONDA Takayuki and MIYAZATO Masako

[Article]

Folklore Issues Surrounding Lacquer
KOIKE Jun'ichi

[Research Notes]

Lacquerware Wholesalers and Distribution of Lacquerware in Edo / Tokyo : A Focus on the 19th Century
IWABUCHI Reiji



ISSN 0286-7400

vol. 225
2021